

## 閣僚の靖国神社公式参拝に対する抗議

私たち全日本仏教会は、これまで再三にわたり「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」と「参拝に対する抗議」を行ってまいりました。しかしながらこの度、安倍内閣の主要閣僚数名が靖国神社に参拝されたことに対し、本会として強く遺憾の意を表明いたします。

靖国神社は、かねてより全日本仏教会が指摘している通り、かつて国家神道の最重要拠点としての役割を果たした宗教施設であります。また、戦没者の信仰する宗教に関わらず、特定の基準をもって合祀の対象とした経緯を踏まえると、靖国神社に首相及び閣僚が参拝をすることは、どのような形式をとりましたが、憲法に定める「政教分離の原則」「信教の自由」に違反することは疑いの余地がありません。

私たち仏教徒は、釈尊の御教えである「いのちの尊重・慈悲の精神」に反して、戦争にかかわったことへの反省の上立ち、争いのない世界を目指して活動してまいりました。そして、戦後の日本が平和社会実現に向けて努力してきたことに誇りを持つと同時に、これからも国際社会において平和の実現に向け政府の活躍を期待するものであります。

特に、首相及び閣僚は、憲法に定められた「信教の自由・政教分離・戦争放棄」の原則を遵守し、世界平和実現のため、指導的立場を貫くべきであります。

今回の参拝は、その使命を自ら放棄するものであり、多くの国民の願いを無視するものであります。

よってここに強く抗議すると共に、公人としての立場を十分に認識され、今後は靖国神社への参拝を慎まれますよう、強くお願い申し上げます。

二〇一三年五月一〇日

公益財団法人 全日本仏教会

理事長 小林正道

内閣総理大臣

安倍晋三 殿

